

参考資料

1. 中間評価についての東京都等からの支援と助言

本計画策定にあたっては、東京都の実施するデータヘルス計画支援事業個別支援により令和2年9月30日に開催された個別支援訪問において、東京都・東京都国民健康保険連合会・東京大学未来ビジョン研究センターより以下のとおり助言を受けました。

表55 東京都等からの支援と助言(要旨)

課題 1	データヘルス計画全体について
助言 1	<p>【健康課題について】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 若年層や非肥満者の課題も分析されており、それが目標にも反映されている点はよい。○ 健康課題の優先度を設定することで事業の重点化がしやすくなる。○ 健康課題と事業が明示的には対応していない。健康課題と事業を紐づけることで、事業の目標が明確になり、また「健康課題解決にどの程度寄与したか」という観点から事業の評価がしやすくなる。 <p>【大目標・目標などについて】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 健康課題と大目標が明示的には対応していない。○ それぞれの計画課題の解決度を図るための評価指標を設定しましょう。評価指標を設定することで、事業の効果や進捗を把握することができます。定量的な評価が可能な指標を設定することで、客観的な評価が可能となります。○ 中長期的な目標値に加え、短期的（年度ごと）な目標値があると、事業のPDCAが回しやすくなります。
課題 2	特定健康診査について
助言 2	<p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 目標値の記載はありますが、「アウトカム」「アウトプット」の記載はありません。健康課題の解決度を図る指標として、設定しましょう。○ 中長期的な目標値に加え、短期的（年度ごと）な目標値があると、事業のPDCAが回しやすくなります。 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 計画の段階であらかじめ評価方法（どのような/いつ時点のデータを用いて評価するか、誰がどのタイミング・頻度で評価するか等）を決めておくことで、適切に評価することができます。事業のPDCAを円滑に回すことができます。 <p>【対象者】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 性別や年齢、地区など対象者の属性別に肥満・メタボの割合や受診率などの分析することで、特に重点的に対策を講じるべきターゲットが明確になります。 <p>【ストラクチャー・プロセスについて】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 事業の質を上げるための連携や、対象者に確実・適切にアプローチするための体制構築といった工夫点を記載しておくこと、事業の評価・振り返りの際に成功要因・阻害要因を考えるうえで有用です。○ 特定健康診査の受診率向上に向けた取り組みは、様々な工夫が検討されておりよい。

課題 3	特定保健指導について
助言 3	<p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 目標値の記載はありますが、「アウトカム」「アウトプット」の記載はありません。健康課題の解決度を図る指標として、設定しましょう。 ○ 中長期的な目標値に加え、短期的（年度ごと）な目標値があると、事業のPDCAが回しやすくなります。 <p>【対象者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ リスクに応じて対象者の優先順位付けを行い、効果的・効率的な事業の実施を行っている点はよい。 <p>【ストラクチャー・プロセスについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事業の質を上げるための連携や、対象者に確実・適切にアプローチするための体制構築といった工夫点を記載しておく、事業の評価・振り返りの際に成功要因・阻害要因を考えるうえで有用です。 ○ 特定保健指導の実施率向上に向けた取り組みは、様々な工夫が検討されておりよい。

課題 4	生活習慣病重症化予防について
助言 4	<p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 目標値の記載はありますが、「アウトカム」「アウトプット」の記載はありません。健康課題の解決度を図る指標として、設定しましょう。 ○ 中長期的な目標値に加え、短期的（年度ごと）な目標値があると、事業のPDCAが回しやすくなります。 <p>【対象者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 性別や年齢、地区など対象者の属性別に肥満・メタボの割合や受診率などの分析することで、特に重点的に対策を講じるべきターゲットが明確になります。 <p>【ストラクチャー・プロセスについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事業の質を上げるための連携や、対象者に確実・適切にアプローチするための体制構築といった工夫点、事業を円滑・適切に実施するためのポイントなどを記載しておく、事業の評価・振り返りの際に成功要因・阻害要因を考えるうえで有用です。